

さんぽう通信

認定書交付式

認定事業者紹介

中小企業施策

イベント報告

中小企業地域資源活用促進法等に基づき7件の事業計画が認定されました！

去る2月2日(月)、四国経済産業局において今年度3回目の認定書交付式が行われ、中小企業新事業活動促進法、中小企業地域資源活用促進法に基づき7件の事業計画が認定されました。

今回認定を受けられた各社の「企業概要」や「今後の抱負」をご紹介します。

【企業概要について】

- ①代表者氏名 ②所在地 ③資本金 ④従業員数
⑤設立年 ⑥事業内容⑦共同申請者or連携参加者

【愛媛県】三共オートサービス株式会社

- ①代表取締役 松村 俊哉 ②愛媛県四国中央市中之庄町1692番地 ③20,000千円 ④60名 ⑤1983年 ⑥自動車販売・リース、車検整備・修理・板金塗装 ⑦㈱タジマモーターコーポレーション

【認定事業】

中型トラックのエンジンを載せ替え、電動化した「コンバージョンeトラック」の開発・製造・販売

＜今後の抱負＞

弊社は、著しく変化する自動車の電動化技術の向上を目的として、平成22年度より愛媛県が始めた「EV開発プロジェクト」に参画し、電動化技術の蓄積を行ってきました。今回、物流事業の環境負荷が少なく、燃費の良いトラックを導入したいという要請に応えるため、国内初となる中型自動車の電気自動車試作車を開発しました。今後、さらに改良を行い物流事業者が満足する製品の開発を行っていきます。

【香川県】株式会社ホリ

- ①代表取締役 堀 洋文 ②香川県高松市木太町2887番地11 ③17,000千円 ④11名 ⑤1974年 ⑥冷凍食品の製造・販売 ⑦なし

【認定事業】

オリーブ葉のパウダー及び高濃縮エキスを活用した魚介類の揚げ物冷凍食品の開発・製造・販売

＜今後の抱負＞

㈱ホリが創業以来こだわってきた、「そのままの食材を、ありのままの調理で」というコンセプトに、香川県の地域産業資源であるオリーブ葉のパウダーと高濃縮エキスをプラスした、これまでに無い新しい商品です。今後も「心と身体が美味しい」と思う商品作りを重ね、地域の発展に尽力できる企業を、従業員と共に目指します。

【愛媛県】株式会社本田洋行

- ①代表取締役 市川 温彦 ②愛媛県四国中央市金生町下分928番地の1 ③10,000千円 ④53名 ⑤1956年 ⑥製紙原料卸売、プラスチック成型・不織布加工品製造 ⑦㈱ひめ美じん

【認定事業】

愛媛のかんきつ(温州みかん)を活用したウェットシートの開発・製造・販売

＜今後の抱負＞

弊社は紙の町四国中央市において、地域企業が必要とする中間素材及び成型品、不織布の付加価値商品サービスを通して地域社会に貢献できる企業を目指しております。今後は本事業を始めとする不織布付加価値商品を更に追求し技術力を高め、少子高齢化社会が進む日本の将来に寄与できるよう努めてまいります。

【香川県】株式会社KUMA

- ①代表取締役 熊野 晴祥 ②香川県高松市松並町830-1 ③20,000千円 ④9名 ⑤2007年 ⑥食品機械・食品装置の開発・製造・販売 ⑦(有)エヌ・エヌ・エフ

【認定事業】

低温高湿度高機能解凍庫の開発・製造・販売

＜今後の抱負＞

(有)NNFの突出した食品加工技術の研究ノウハウと㈱KUMAのお客様目線で考える食品機械設備の設計製造技術の連携により開発中の低温高湿度高機能解凍庫は、今までの世に無い高品質解凍を提供できる設備と自負しております。更に生鮮品の置き換えなど、新市場の開拓も視野に入れ取り組む所存です。

【徳島県】簗庵有限会社

- ①代表取締役 カー アレックス アーサー ②徳島県三好市東祖谷釣井209番地 ③5,000千円 ④2名 ⑤1984年 ⑥地域活性化支援のコンサルティング等 ⑦なし

【認定事業】

平家落人伝説が残る落合集落に所在する茅葺古民家を活用した外国人向け「平家落人文化体験講座」プログラムの開発・提供

＜今後の抱負＞

全国で各地域にある課題を解決しながら、その地域の活性化を支援するコンサルティングを行っています。徳島県や香川県等を中心に、滞在観光客の増加や地域振興のため、外国人等向けの文化体験型ツアーを今後企画して地域に寄与していきたいと考えております。

【愛媛県】ユースエンジニアリング株式会社

- ①代表取締役 角田 勝美 ②愛媛県新居浜市新田町1丁目6番22号 ③45,000千円 ④98名 ⑤1970年 ⑥生産用機械の開発・製造・販売、ドキュメント制作 ⑦なし

【認定事業】

一般産業用機械の生産に係る技術を活用し、電極を小型化したプラズマ処理装置の開発・製造・販売

＜今後の抱負＞

当社は、技術を通じて世の中に貢献することを社是とし、部品加工を行う工場は保有しないで協力会社から部品供給を受けるファブレス企業としてクリーンな環境下でのマテハン装置の設計製作を中心に事業展開してまいりました。今後は、プラズマ技術をベースに地域資源を結集して、プロセス装置の分野を開拓していきたいと考えます。

【高知県】燈のの家

- ①代表小森將義 ②高知県長岡郡大豊町立川上名1239-13 ③個人 ④2名 ⑤2010年 ⑥飲食店・民宿営業、弁当製造販売 ⑦なし

【認定事業】

鹿肉を活用したペット用加工食品の開発・製造・販売

＜今後の抱負＞

地域内では害獣動物が増加、作物等への被害が増えているところ。年間 1,700 頭ほどの鹿の捕獲も利活用されていないのが現状。人はジビエに抵抗感があることを踏まえ、本来肉食動物の犬に着目し、商品化を進めています。鹿肉は高タンパク低脂肪と良質の商材であり、さらに試行錯誤を重ね、多くの方に愛される商品を提供したいと考えています。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

【認定事業者紹介：徳島県】

(有)うずしお食品が徳島県鳴門わかめの第1号認証を取得しました！
鳴門を背負って認定事業に取り組んでいきます！

(有)うずしお食品

平成26年10月15日 農商工等連携事業計画認定 徳島県鳴門市

(有)うずしお食品は、「鳴門わかめの冷凍加工商品の開発・製造・販売」で農商工等連携事業計画の認定を受けています。

今年1月9日付で、同社が「徳島県鳴門わかめ認証制度」の第1号として県の認証を取得しました。同制度は「適正な食品表示」と「トレーサビリティ（加工履歴管理）」を備えた加工業者を徳島県が認証し、認定シールを発行することにより、安全・安心な「鳴門わかめ」を求める消費者の信頼に応えるものです。

いの一歩に県のお墨付きを得て、安全・安心な鳴門わかめの供給に一段と力が入る同社ですが、改めて認定商品についてご紹介します。認定商品である「冷凍わかめ」は加工方法の工夫により塩蔵わかめ（湯通して塩漬にしたわかめ）や乾燥わかめ（湯通して乾燥させたわかめ）では体験できない、生わかめのシャキシャキとした食感を残しているという長所に加え、塩蔵わかめと異なり塩抜きが不要で調理に手間がかからないという長所も兼ね備えた画期的な商品です。さらに、生わかめはシーズンである1月～3月しか手に入りませんが、冷凍わかめは通年食べられる点も見逃せません。

同社を含め今回認定を受けられた加工業者の皆様が今後の鳴門わかめを牽引していくこととなりそうですが、冷凍わかめという強力な武器をもつ同社が鳴門の中でも一歩も二歩も抜け出て、全国の食卓にシャキシャキのわかめを季節を問わずお届けできるようになる日はそう遠くありません。

【鳴門わかめ認証制度のサイト】

<http://www.naruto-wakame-ninsyou.jp/approval/company/>

収穫中の様子



収穫後のわかめ

四国でいちばん大賞・記念講演会に今注目の企業が登場！ 安倍首相も注目した(株)天彦産業の社長が語ります！

イノベーション四国顕彰事業(※)では「第4回四国でいちばん大切にしたい会社大賞」及び「第19回四国産業技術大賞」の表彰式を3月6日に行いますが、合わせて開催される記念講演会についてご案内します。講演者は、平成24年度に経済産業省「ダイバーシティ経営100選」に選出され、昨年4月には安倍首相も視察に訪れるなど注目度の高い(株)天彦産業・樋口社長。「社員ひとりひとりが輝く“いい会社”とは」という題でご講演いただきます。ぜひお申し込みください！なお、今回認定事業者が各賞を多数受賞していますので、詳細は3月15日号でご紹介します！

【日時】平成27年3月6日(金)14時50分～17時

【場所】かがわ国際会議場(香川県高松市サンポート2-1高松シンボルタワー タワー棟6階)

【参加費】無料

【申込方法】下記の案内ページから申込み用紙をダウンロードいただき、FAX送信

FAX:087-811-8549

【プログラム】①表彰式(14時50分～15時10分ごろ)

②記念講演(15時10分ごろ～17時)

(※)中小機構四国が「[四国でいちばん大切にしたい会社大賞](#)」の事務局を、STEP((一財)四国産業・技術振興センター)が「[四国産業技術大賞](#)」の事務局を務めています。

【案内ページ(中小機構プレスリリース)】

<http://www.smrj.go.jp/kikou/press/shikoku/090846.html>

補助金公募についての最新情報！ 注意すべき変更点についてもご紹介しています！

2月3日発行の号外でもご案内してまいりましたとおり、ふるさと名物応援事業のうち三法認定事業者の方々向け(ただし、認定事業計画期間中であることが前提)の補助金の公募が行われていますが(2月27日(金)まで)、その後も続々と新たな補助事業の公募が開始されていますので、事業者の皆様と関連性が高いと思われるものをご紹介します。

1. ふるさと名物応援事業補助金(小売事業者等・ふるさと名物開発等支援事業)

まず、ふるさと名物応援事業補助金のうち、小売事業者と製造事業者との連携や複数事業者が連携したふるさと名物開発を対象としたものについては、現在事務局を公募中です。今後内容が多少変更される可能性もありますが、以下のリンク先PDF14・15ページに補助要件等の情報がありますのでご覧ください。[経済産業省HP](http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/chiiki/2015/150130hurusatojimukyoku1.pdf)(2月16日時点)によれば3月上旬に事業者の公募を開始予定とのことですので、次回配信時には最新情報をお伝えできそうです。

<http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/chiiki/2015/150130hurusatojimukyoku1.pdf>

2. ものづくり・商業・サービス革新補助金

昨年に引き続きいわゆる“ものづくり補助金”の公募が2月13日から始まっています(平成27年5月8日(金)まで)。条件は以下の表にあるとおりですが、詳細は各県地域事務局のページから公募要領をご確認ください。

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2015/150213mono.htm>

種別		対象要件	上限額	補助率	設備投資	
革新的サービス	一般型	「中小サービス事業者の生産性向上のためのガイドライン」(※1)で示された方法で行う革新的なサービス創出等であり、3～5年計画で、「付加価値額」年率3%及び「経常利益」年率1%の向上を達成できる計画であること。	1,000万円	2/3	必要	
	コンパクト型		700万円		不可	
ものづくり技術		「中小ものづくり高度化法」に基づく「特定ものづくり基盤技術」(※2)を活用した画期的な試作品の開発や生産プロセスの革新であること。	1,000万円			
共同設備		複数の企業が共同し、ITやロボット等の設備投資により革新的な試作開発等やプロセスの改善に取り組むことで共同事業者全体の3～5年計画で「付加価値額年率3%」及び「経常利益」年率1%の向上を達成できる計画であること。	共同体で5,000万円(1社あたり500万円)			必要

(※1)2月4日付で公表されたガイドライン。ものづくり補助金の対象要件だけでなく今後公募が行われる「[商業・サービス競争力強化連携支援事業](#)」の対象要件にも関わってくる見込みですので、ぜひ一度ご確認ください。

(※2)2月9日付で「デザイン開発にかかる技術」が追加されました。ものづくり補助金とサポイン事業(=[戦略的基盤技術高度化支援事業](#))の対象要件にも関わってきますので、ぜひ一度ご確認ください。

～上記公募情報その他の情報については、必ずご自身でホームページにアクセスいただき、ご確認ください！～

Rin Crossingの参加メーカーを募集中(2月25日(水)まで)！

中小機構が運営するBtoBマッチングサイトRin Crossing(リン・クロッシング)では、今月25日まで、参加メーカーを大募集中です！WEBサイト掲載(無料)による国内外のバイヤーとの情報交換、各種展示会への共同での無料出展、バイヤーやクリエイターとの商品開発などのメリットもあります！

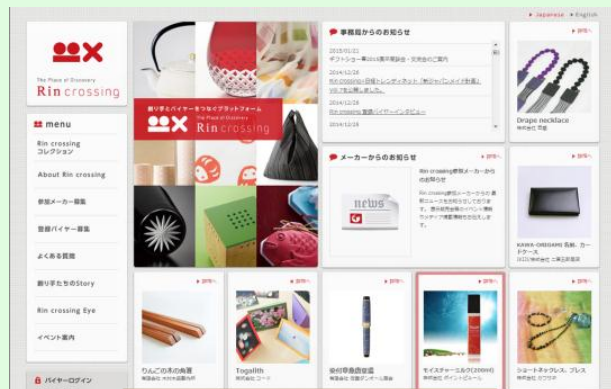
掲載対象は、地域資源を活用し、地域資源の価値向上への貢献が期待できる商品、あるいは高品質で地域性・デザイン性の高い「Rin ブランド・コンセプト」に相応しい商品です。該当商品をお持ちのメーカーの皆様は、ぜひご応募ください！

【応募方法】

以下の参加メーカー募集ページから、応募要項、応募用紙、応募用紙(記入例)をダウンロードいただき、応募用紙に必要事項を記入の上、rincrossing@smrj.go.jpあてに送付(応募用紙は参加申込書、応募シート、応募資料、追加写真の4枚のシートに分かれています)。

【Rin Crossing参加メーカー募集ページ】

http://rincrossing.smrj.go.jp/members_support/index.php



Rin Crossingのサイト

【イベント開催報告】

中小機構四国お客様交流セミナー開催！

(株)キシモトの生産現場改善事例を紹介しました！

1. はじめに

サンポート高松において2月10日(火)に中小機構四国お客様交流セミナーが開催されました。本セミナー後半では認定商品(※1)である骨まで食べられる干物「まるとと」が全国放送で取り上げられて一躍脚光を浴びている(株)キシモトが登壇され、中小機構専門家とともに地域活性化支援アドバイザー派遣制度(※2)を活用した生産現場改善事例を中心に講演いただきました。

2. キシモトのテレビ放映秘話

登壇したのは(株)キシモトの岸本専務、中小機構四国の越智プロジェクトマネージャー(PM)、そして大手食品メーカーOB・衛生管理のプロフェッショナルである楠本地域活性化支援アドバイザー(AD)。岸本専務からは会社の生い立ちに始まり、介護施設では骨がついた状態の干物を食べたいという高齢者の要望が多くあることを知り、愛媛県産業技術研究所等との共同研究により、平成22年に骨まで食べられる干物の開発に成功したこと、昨年6月ごろにテレビ局から取材の打診があり、当初は断っていたものの偶然ハワイでの催事出展の誘いと重なり、ちょうど良い機会と取材を承諾したことなどをお話いただきました。

3. 衛生管理に関するアドバイス

岸本専務のお話に続き、越智PMと楠本ADからは、相手先が求める衛生管理の基準をクリアできず取引に至らなかったこともあり、認定事業推進のために生産現場の衛生管理強化が課題となったこと、社員全員が基本的な衛生管理の知識を習得し、衛生管理の仕組みが構築され、自立的に運用されることを目指して支援が開始されたこと、例えば工場の床の塗装が剥げると腐食につながるなど衛生管理についての基礎知識を事例をまとめたビデオも用いて分かりやすく説明したことなどをお話いただきました。

4. 専務からのありがたい謝辞

岸本専務からは「楠本ADの話が心に響き、面白くて仕方がなかった。聞いた話を実践したくて従業員に話したところ、今度は従業員がやる気になった。工場のペンキ塗りなど、みんなで休日に出勤して改善活動を行った。」という熱意あふれる言葉とともに、「農商工等連携の認定を受けることで色々な方々に事業に参加いただくことができ感謝している」というありがたい言葉をいただきました。

5. お客様交流会～交流会ではまるととに舌鼓～

セミナー終了後の交流会では(株)キシモトからまるととを提供いただき、参加者は人気沸騰中でなかなか手に入らないまるととを堪能することが出来ました。気になる方は(株)キシモトHPへどうぞ(現在お届けには多少時間がかかるようです)。(※1) (株)キシモトは、「八幡浜港で水揚げされる鮮魚を活用した魚骨の軟化技術による骨まで食べられる干物等の開発・製造・販売」で平成23年6月16日に農商工等連携事業計画の認定を受けています。

(※2) 衛生管理やWEBサイト構築など各分野に精通した専門家が3回の派遣の中で事業者の課題解決に向けた支援を行う。計画認定を受けるためのブラッシュアップから計画認定を受けた後のフォローアップまで幅広く活用できる。詳しくは担当の専門家までお尋ねください。

編集後記

配信が遅くなりまして申し訳ございませんでした。新規認定事業者の皆様、このたびは認定おめでとうございます。2月14日の日経新聞朝刊地域面で早速(株)ホリの認定事業が紹介されていましたが、さんぼう通信としても全力で事業の広報・PRに取り組ませていただきますので、どんな情報でもお気軽に担当専門家にお寄せください！(井下)



登壇中の岸本専務(写真左)と楠本アドバイザー



交流会でまるととを手にとり説明される岸本専務